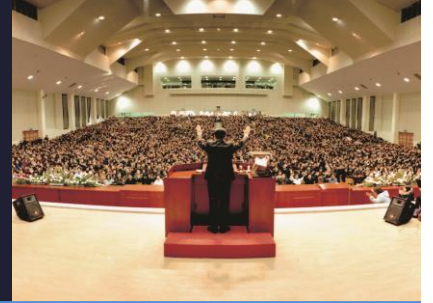


# 恵みと真理のニュース



2019年05月の一次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。

私が子供の頃、母が酷く偶像崇拜をしました。それで、今も幼いごろの光景が忘れなく明らかに思い出します。母が体の調子が悪いと占い師のおばあさんが家に来ておばけを追い出す意識を行いました。また、父がお葬式に行く日は母が塩をパガジに入れて父を待って塩を投げたりしました。母は他の人が使った物が家に持って来ないようにしました。物につけているおばけが自分にもつけるからだと言われました。母は周期的に占う巫女に行つて祭祀をしてお守りをもたらしてきて家のあちこちに貼って置きました。引越しに行く時も巫女に引越しに家を聞いて決めました。たまにはもんちゃくを起こす弟がまじめになるため弟の頭の上に人が歩いてはいけないと言った巫女の話を書いて私達の家族はいつも一番の高い層に住みました。そうするうちにある日、イエス様を信じ熱心に信仰生活をする親戚が切に教会に行こうと伝道しました。父は強く決心して母を説得して全ての家族が教会に行くことになりました。教会に行つたのははじめの日、車に乗るといつも酷く車酔いをした母はその時は車酔いをしないように神様に祈りました。ところが、うそのように家に帰ってくる道に車酔いをしなかったです。母はまた、自分を苦しめるサタンが退けるように神様に祈りました。すると、母を苦しめたサタンが退けました。その後、全ての家族が楽しく教会に通うようになり神様に礼拝を捧げました。特に父が信仰生活に頑張りました。続けて変化され教会でも熱心に奉仕して男性区域礼拝も休まずに参席して敬虔な生活をしました。私が学校を卒業をした後、就職のため努力しましたが、思うとおり出来なかつたです。聖書の御言葉で落胆して祈りで神様に叫びました。そうするうちに私が入社したかったのですが、5年間、新入社員を採用しなかつ

た所で年末に急に採用公告をしました。喜びで志願して筆記試験を通過して面接を受けに行きました。三人の会社の関係者が面接官でした。ところが、その中で一方が面接の間、質問をしなくて私を観察して何か記録するのがおかしかったです。家に戻ってきてその方の態度が気になりました。また、私が答える時、あまり表情が良くなかつたのが心配しました。ところがこのような恐れはわたしの勘違いでした。合格したのです。入社して配置された時、面接をした方が私が属した部署の上司で来られました。私を見て笑いながら、私が点数を上げなかつたら合格できなかったらうとしました。その上司は篤実なクリスチャンでした。私は祈りに答えてくださり、働いてくださった神様に感謝を捧げました。結婚を考えながら配偶者のため祈り始めました。配偶者に願う項目を手帳に具体的に書いて祈りました。ところが、男を紹介されて徐々に知り合う過程で私は驚きました。私が祈った題目と彼が持っている条件が正確に一致したからです。ただし、一つおしいのは旦那が神様に対する熱い信仰を持つ祈りにおろそかにしたのです。今もつづけて私が祈っています。結婚して子供がすぐ出来なくて涙で神様に祈って、神様の恵みで願った妊娠をして子を出産しました。ところが、病院で子供の副腎皮質ホルモンの数値が正常ではなかつたから一生検査を受けて薬を飲まなければならないとしました。あきれたことでした。赤ちゃんより大きく見える薬の封筒をもらって家に帰ってきました。深く考えた旦那がこの薬を飲むと子供が痛くなると思うので薬を飲まないようにしました。私も旦那の話に同意して病院に行かなかつたです。その後、まもなく、村でソウル大学で家長した医師から小児科の専門病院を開院しました。子供を検診した医師から何の問題もないと言われました。そして、まず病院で診断されたとおりの問題がある時、表れる症状を説明をしてくださって以上がないから健康に育ちなさいと言われました。ハレルヤ！経験が多すぎるらしい医師に出会えるようにしてくださった神様に感謝を捧げました。息子が一歳になった頃、スワン市で引越しをして隣の家に住む方の手伝ってもらい恵みと真理教会でもっと主を仕えるようになりました。当会長の牧師の説教に大きい恵を受けて伝道士と首区域長と区域長達の愛と面倒を受けて楽しく信仰生活をしました。児童区域長の職分を受ける恵みに感謝しながら教会学校と子供達を仕えました。その時、教会で多くの方々から受けた愛が大きかったです。また、神様に感謝することは神様

が息子の背が伸びて健康に成長するようにしてくださいました。小学校3年生時、息子の成長版の検査を受けましたが、わたしたち夫婦の背と骨と歳などを測定したら息子の身長が最大172cmだと言われて落胆しました。私は息子が健康に育つため神様に祈って成長に良い食べ物と漢方の薬を飲ませて、水泳、サッカー、陸上のような運動を真面目にするように助けてくださいました。そうしたら19歳になった息子の背が185cmです。旦那は誠実性と能力に比べて流通性が足りなくて上の人より下の人々からもっと認定を受けます。それで、昇進から排除されるか心配しました。去年末、定期人事を控えて旦那の本部の最高の責任者から今回は昇進は大変だと聞かれたと落胆しました。その話を聞いてわたしは過ぎ越し礼拝を捧げながら切に神様に助けを求めながら祈りました。期待と希望を持って神様を仰ぎました。新年、初めの勤務をして帰って来た旦那は書類を私に渡しました。開いてみたら昇進者の名団でした。その中で旦那の名前が書かれていました。息子が今年から教会学校の幼稚部で教師として奉仕を始めました。高校を通いながら学業で教会生活を熱心にしなかつたのがとてももったいなくかつたですが、教会で熱心に奉仕する息子の姿を見ると自然に神様に賛美するようになります。娘も兄を見習ってこれから教会で熱心に奉仕する生活をすると決心して私を喜ばせます。今、わたしの大事な祈り課題は旦那も聖霊洗礼を受けて教会で誰よりも熱心に奉仕することと二人の息子と娘が相変わらず主を愛して神様の祈りながら自分の事に最善を尽くして神様が予備した道に行くこと、神様が旦那に福を与えてくださっていつも楽しんで平安な心で主の事に全身全力を尽くすことです。このようなわたしの期待と希望が神様の恵みで成し遂げることを信じます。いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。(テサロニケの信徒への手紙5:16~18) 私は毎朝、この聖書区節を覚えて祈りながら一日をはじめます。主だけがわたしの喜びで誇ります。このようなわたしの家族を守ってくださり、主のことに献身するように恵を与えてくださる神様に感謝と賛美しながら全ての栄光を捧げます。



【信仰コラム】

主の中で親と子供の道理

“父たる者よ。子供をおこらせなさい、主の薫陶と訓戒とによって、彼らを育てなさい”(エペソ人への手紙6:4)

親と子供の関係で当たり前を守るべき道理を天倫だと言います。神様がくださった義務と責任であるからです。聖書にはこのような天倫を行う正しい姿勢について記録されています。子供に対する親の道理に対して調べてみます。本文に“父たる者よ。子供をおこらせなさい、主の薫陶と訓戒とによって、彼らを育てなさい”としました。

第一、親は子供を訓戒しながら育てるべきです。子供の脱線と放縦の原因の中で親の厳格より度を越した放任がより問題をもたらします。幼いほど教育しやすく、その効果が高いです。子供を責めて懲戒することが必要であるが、注意すべきことがあります。伸るほど責めや懲罰は減らして婉曲な方法を選ばなければなりません。感情に片寄って懲戒することは子供の人格を無視する行為です。子供を自分の所有物のように扱わずに神様が任された子供だという事実を考えるべきです。また自分が叶えられなかつた理想を実現するための継承者にさせようと強要してはいけません。人は全て個性があり趣向と才能、心に抱いた理想が異なります。親は子供を責めて懲戒する責任があり、これは神様がくださった神聖な義務です。幼い時に良く薫陶して懲

戒して正しい道に導くと子供の一生に大きな福になります。“むちを加えない者はその子を憎むのである、子を愛する者は、つとめてこれを懲らしめる”、”子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない”としました。第二、親は子供の信仰教育に励むべきです。親が子供に与えることができる最大の資産は信仰です。神様を敬う信仰を持つように導いて、信仰的な習慣を育ててあげるべきです。一、礼拝を捧げる習慣です。二、奉仕する習慣です。三、伝道する習慣です。四、神様に捧げる習慣です。五、全ての光栄を神様に捧げる習慣です。六、神様の助けを求める習慣です。七、神様の御言葉を定期的に読んで黙想する習慣です。八、正しい国家観を教えるべきです。わが国は国家安保と自由民主主義体制を維持することが教会の安寧と不可分の関係だということを教えるべきです。子供に対する最も効果的な信仰教育は率先垂範することです。苦境に処された時、子供の前で落胆する行動をせずに、信仰の言葉をして家族が共に集まって祈りする姿を見せるべきです。人が幼い時からイエスキリストを信じて彼の全生涯を神様に向けた信仰と望み、愛の中で生きていくより幸いなことはありません。幼い子供に信仰を持つようにしてあげることは比べることのできない高貴なことです。第三、親は子供に激励して祝福する任務を忠実に遂行すべきです。自分の子供が良くなることを願いながらも子供に激励して祝福することに疎かな親が多いです。子供に否定

的な言葉や呪いの言葉を決してしてはなりません。そのような言葉を良く聞くとそのような自画像を形成して自ら蔑視するようになります。苦境に遭うと当たり前なことに扱い、克服できません。他の兄弟や子供と比較して評価し判断する言葉をしてはなりません。子供に対する肯定的な激励の言葉は親が子供に与えられる価値のある賜物です。子供に向けて期待する、信じる、愛する、好きだという言葉はいかに多く使っても過ぎません。子供に祝福することを積極的にすべきです。子供に祝福することを積極的にすべきです。家庭で親は子供に対して祭司長のように祝福する権威と使命を持っています。今親達が子供をひたすら主の薫陶と訓戒で育てるなら次の世代には真実な信仰を持った数多くの人々がこの社会を導くでしょう。聖書通りに子供を養育する聖徒達は子供だけではなく、未来社会のためにも大きな貢献をするのです。

「テョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」



## 偽りの神本主義、真の神本主義



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

人間の歴史は殺傷と破壊に起因した血と涙で汚れたものは、人々が偽りの父であるサタンの操縦を受けて嘘を行った結果です。アダムとエバは、サタンの欺きに陥って善悪を知る木の実を取って食べました。カインは弟アベルをだまして野原に呼び寄せて石打ちで殺しました。神の存在を否定する無神論は、サタンの策略です。人間の認識能力は有限であるので、神の存在を知ることができないという不可知論もサタンの策略です。偶像崇拜と迷信、宗教も、サタンの策略です。これらのサタン悪魔は、神本主義にも偽りの神本主義を浸透させました。今日は偽りの神本主義について見てみましょう。サタンは狡猾で、聖書を教え、学ぶ人も偽りの神本主義に陥るようにします。偽りの神本主義には歪曲された神本主義と疑似非の神本主義があります。これらの2つは類似しながらも区別される点があります。

### 第一に 歪曲された神本主義があります。

歪曲された神本主義では福音書に記録されたパリサイ人や律法学者が挙げられます。歪みというのは事実と異なって作ったり、誤っていることを意味します。イエスはパリサイ人や律法学者たちを何度も叱責されました。「偽善な律法学者、パリサイ人たちよ、あなたがたは、わざわざである、あなたがたは、天國を閉ざして人々をはいらせない、自分もはいらないし、はいろうとする人はいらせません」(マタイによる福音書 23:13)しました。

「あなたがたは、自分たちの言傳えを守るために、よくも神のいましめを捨てたものだ。モーセは言ったではないか、『父と母とを敬え』、また『父または母をのしる者は、必ず死に定められる』と、それなのに、あなたがたは、もし人が父または母にむかって、あなたに差上げるはずのこのものはコルバン、すなわち、供え物ですと言えば、それでよいとして、その人は父母に対して、もう何もしないで済むのだと言っている。こうしてあなたがたは、自分たちが受けついで言傳えによって、神の言を無にしている。また、このような事をしばしばおこなっている」(マルコによる福音書 7:9~13)しました。コルバンはバビロン捕虜の後に生じた習慣で、神の供え物として捧げ、他の人が使用できないようにしたものを指します。パリサイ人のある者が、両親の鳳陽を避ける手段としてコルバンの習慣を悪用しました。パリサイ人たちは、このように、律法と慣習を、神中心ではなく、自分中心的に解釈して、自分の利益と名誉のために使用しました。このような行為が歪曲された神本主義です。

パリサイ人や律法学者たちは、義とされる道が律法を守って行なうものと思いました。しかし、聖書が教えるのは、それではありません。神が人間に求められるのは、人間の行為では到達できないからです。律法は、人間に罪ととがを露出する役割だけあります。解決してくれるのはできません。律法がさらけ出してくれる、私たちの罪ととがは、イエス・キリストの贖いを通じてたけでできます。イエス・キリストを信じる者には、神の義が転嫁されます。これらの恵みと真理を知らない、または信じない人は、最後まで人の行為によって義となろうと努力をすることになります。そして、力を尽くして神の義を排斥する結果を招くことになります。あがないの恵みと真理を確実に覚って固く信じなければなりません。

歪曲された神本主義に陥った者は、真の神本主義を憎み、迫害します。使徒行傳をみると、ステファノがユダヤ人に焦がれる心で福音を伝えて、悔い改めを促しました。しかし、これを聞く者は、かえって偽りの証人を立てステパノが神様を冒瀆する話をしたと非難して石打ち殺しました。彼らは自分が行ったのが神を中心に判断して行ったことだと確信していました。しかし、実際は歪曲された神本主義に陥っている人たちです。

### 第二に 疑似神本主義があります。

表面上は同じように見えるが実際には、異なるものが疑似です。疑似神本主義が積極的に、キリスト教会に参加する理由は、自分が求めている、世界で何かを得るためです。このような者たちの正体を見てみると、彼らは二重の論理と二重を言って、二重の行為をします。誰が真顔をして、次のように主張するなら、あなたはその人をどう思いますか?「正三角形は三角の大きさと三辺の長さがすべて同じである。しかし、等しくないこともあるのを排除することはできない。」

WCCの主張がこのようなです。WCCの世界宣教と伝道協議会の文書である「一致に向けた今日の宣教と伝道」宣言文にこのように記録されています。「私たちは、イエス・キリストを通じた救いのほか、他の救いを話すことができない。同時に、私たちは神の救いの力にどのような制限を置くことができない。」これは、「イエス・キリスト以外に救いの道が、他の救いの道があることができる。」という二重表現です。「聖書は、全能の神が啓示された言葉であるので、真実であり、真理であります。しかし、今日の科学的な側面から見ると、エラーが多いのを否定することはできない。」という二重の表現をする人もいます。互いに相反告白を一つの文章に込めています。これ悪賢い悪魔の策略です。

疑似神本主義は、神の中心ではなく、自分中心です。イエス様が十字架を負うためにエルサレムに行きながら自分に臨んで来るのを何度も弟子たちに予告されました。「見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子は祭司長、律法学者たちの手に引きわたされる。そして彼らは死刑を宣告した上、彼を異邦人に引きわたすであろう。また彼をあざけり、つばきをかけ、むち打ち、ついに殺してしまう。そして彼は三日の後によみがえるであろう」(マルコによる福音書 10:33,34)。ところが、弟子たちは、その言葉をすべて自分中心に解釈しました。ペテロがイエスを握り、言った、「すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せて、いさめはじめ、「主よ、とんでもないことです。そんなことがあるはずはございません」と言った。イエスは振り向いて、ペテロに言われた」としました。

イエスが振り向いてペテロに言われた。「サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者だ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」(マタイによる福音書 16:22,23)。ペテロの言葉と行動は、疑似弟子や相違ありません。イエスを主と呼ばれる真の弟子であれば、主の御心が表明された言葉を自分の意に適うように修正しようと立ち上がってははいけません。ヤコブとヨハネは、イエスがイスラエルの支配者になることを期待していました。そして、イエスに言った、「先生、私たちが先生に何を求めるか私たちにしていただきたいのです」としました。イエス「私はあなたに何をしてくれるのをほしいのか?」と言われました「先生の栄光の中で私たちが一りは先生の右には、一りは左に座するにしてください。」としました。その言葉を聞いて、他の弟子たちが不快に考えました。その理由は、高い席を二人が先取りしようとするからです。このように、弟子たち皆がイエス中心ではなく、自分中心的に考えて判断し、行動しました。疑似弟子たちでした。しかし、復活されたイエス様に会ったので、彼らはすべて徹底的に神本主義になりました。すべてのことを神の中心に理解して判断し、行動しました。

### 第三に、真の神本主義があります。

使徒パウロの場合を見てみましょう。彼はパリサイ人であって律法学者で、他のパリサイ人のように、聖書を自分中心的に理解して信じていました。律法を徹底的に守って義とされて救いを得るためにしました。彼は救世主と贖いについて無知でした。そしてキリスト教会を迫害することに先頭に立ちました。彼はエルサレムをかき回しながら、クリスチャンを探し出して逮捕して刑務所に渡しました。それだけでなく、外国の都城のクリスチャンを逮捕して行こうと出ました。彼はユダヤ人の最高の司法機関であるサンヘドリンから逮捕令状を受けて人々をともししてダマスコに向かって行きました。ダマスコ都城の近く達した時でした。突然正午の太陽の光よりも明るい光がパウロとともに囲まれて照らしました。すべての人が地に倒れました。その時天から声が聞こえてきました。「サウル、サウル、あなたはなぜわたしを迫害するのか?」当時には、彼がサウルという名前を使用していました。パウロが「主は誰ですか?」と尋ねると、「私はあなたが迫害しているイエスである。」という回答が聞こえてきました。このパウロは驚くべき事実を悟りました。彼が今日まで神本主義で生きようと努力してきましたが、実際には、疑似神本主義だったのです。彼は十字架につけられて死なれたイエス様が主でありキリストであり、神であることを初めて知りました。パウロはその場で「主よ、私が何をすればいいですか?」と質問しました。この日以来、パウロは「主よ、私が何をすることを願いますか?」という質問を最初にして生きていきました。

私たちは、真の神本主義者として生きて行く「私の主は誰ですか?」という質問に対する正しい答えを確実に知っています。そして、「主よ、私が何をするのが願いですか?」という質問に対する答えを得て行動しなければなりません。

皆さんは歪曲された神本主義、疑似神本主義を分別して排斥して、常に真の神本主義としての神を中心に、神の第一に、神の優先に考えていいながら生きて行かれるのを願っております。